PRESS RELEASE

2026年11月12日
プライム ライフ テクノロジーズ株式会社
株式会社松村組

地域のものづくりと暮らしを未来へつなぐ新たなまちづくりモデルが始動

「旧羽田旭小学校敷地活用事業」
第一期施設「コミュニティセンター羽田旭」が竣工

プライム ライフ テクノロジーズ株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：道浦正治、以下、PLT）と PLT グループの株式会社松村組（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：村上修、以下、松村組）は、大田区とともに実施する「旧羽田旭小学校敷地活用事業（以下、「本事業」）において、地域コミュニティの活性化と産業活性化を両立するまちづくりプロジェクトを推進しています。

本事業は、「つくる」と「暮らす」を一体化した持続可能な地域づくりを目指す公民連携プロジェクトです。地域交流・防災拠点となる「コミュニティセンター羽田旭」、ものづくり企業やスタートアップの共創等を支援する「工場アパート」、多様な人材の居住や滞在を支える「共同住宅兼店舗」を一体的に整備することで、地域の産業とコミュニティの新たな循環の創出を目指しています。今回、その第一期施設として「コミュニティセンター羽田旭」が竣工しました。

また、本事業を推進する PLT は、東京都の「ディープテック・イノベーション拠点推進事業（Ⅱ型）※」の採択事業者に選定されました。都からは、大田区のモノづくりに必要な工場機能を備え、入居者や地域の事業者、支援機関等が交流・共創できる空間を整備し、ディープテック領域を中心としたスタートアップ等の成長を後押しすること、同区のモノづくり企業群と連携することで、地域産業の高度化と新産業の創出を推進し、持続的な産業発展に寄与する拠点になることを目指している点が評価されました。

※最終ページ参照



建物外観

地域課題の解決から地域価値を創造するプロジェクト

東京都大田区は、全国有数のものづくり産業の集積地として発展してきました。一方で、工場の減少や後継者不足、地域コミュニティの希薄化、公共施設の老朽化など、地域が抱える課題も顕在化しています。

本事業は、こうした地域課題を個別に解決するのではなく、「産業」「暮らし」「地域コミュニティ」を一体的に再構築することで、地域全体の持続的な発展につなげることを目指しています。

PLT は単に施設を整備するだけではなく、多様なプレイヤーをつなぎ、新たな価値創出の仕組みを設計・運営するプラットフォームとして本事業を推進しています。



※左から、コミュニティセンター羽田旭、共同住宅兼店舗、工場アパート

ものづくりエコシステムで地域の未来をつくる

本事業では、大田区が培ってきたものづくりの力と、スタートアップなどが持つ新たな技術やアイデアを結び付け、地域産業の維持・発展と新たな価値の創出を目指す「大田区版ものづくりエコシステム」を構築します。

大企業、金融機関、ベンチャーキャピタル、大学・研究機関、スタートアップ、町工場などで構成される「ものづくりコレクティブ」を形成し、今後整備される工場アパートを拠点として、ものづくり企業とスタートアップが出会い、交流・連携しながら、新たな技術や事業が生まれる環境を整備します。

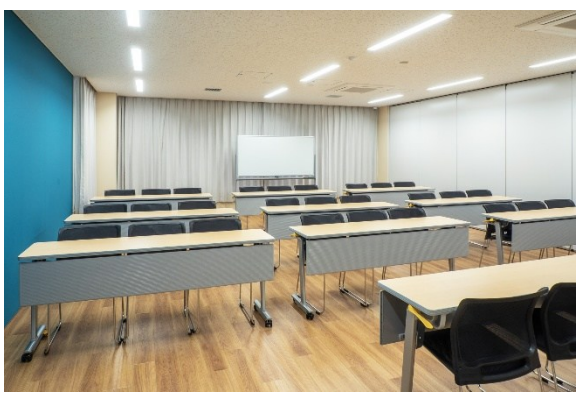
PLT が本事業で掲げる「試作開発のメッカ」の実現に向け、地域の技術力と新たな挑戦を結び付け、地域産業の高度化と新産業の創出につなげていきます。さらに、ものづくりを起点に地域との交流を広げ、ものづくりに関わる人々と地域住民が自然につながるコミュニティの形成を目指します。

第一期施設「コミュニティセンター羽田旭」の役割

今回竣工したコミュニティセンター羽田旭は、本プロジェクトの基盤となる施設です。地域住民の交流拠点として活用されるとともに、災害時には地域防災の拠点として機能します。また、地域イベントやワークショップ、産業交流の場としても活用され、今後整備される工場アパートや共同住宅兼店舗との連携を通じて、人と人、人と地域、人と産業をつなぐ役割を担います。



コミュニケーションスペース



第一集会室


体育室


エントランス＆ピロティ

ものづくりとイノベーションを生み出す拠点へ

本事業における「工場アパート」と「共同住宅兼店舗」については、スタートアップやものづくり企業などが集い、交流・連携しながら新たな技術やサービスの創出を目指す取り組みが評価され、東京都の「ディープテック・イノベーション拠点推進事業（Ⅱ型）」の支援先事業者に選定されています。この都の事業は、ディープテック分野のスタートアップなどによる技術の事業化や社会実装を促進するため、イノベーション拠点の形成を支援するものです。本事業は、大田区が培ってきたものづくりの力と、スタートアップなどが持つ先端技術を結び付け、新たな技術やサービス、イノベーションが生まれる拠点形成を目指します。

PLT の「まちづくり事業本部」を中心に、グループの力を結集

本事業は、これまでミサワホーム株式会社を中心に推進してきましたが、2026 年 4 月に PLT が「まちづくり事業本部」を新設したことに伴い、本事業に関する業務は事業継承により PLT へ移管しました。現在は PLT が主体となり、住宅・建設などグループ各社が培ってきた技術・ノウハウを結集し、本事業を推進しております。

今回、コミュニティセンター羽田旭の施工は、PLT グループの建設会社である松村組が担当。PLT と松村組は、地域の皆さま、行政、企業などとの連携を大切にしながら、旧羽田旭小学校跡地を新たな地域の拠点へと育て、持続的なまちづくりを推進してまいります。

以 上

■事業および計画概要

事業名：旧羽田旭小学校敷地活用事業（公民連携事業）
計画地：東京都大田区羽田旭町 7-1
敷地面積：約 8,000 ㎡
地域地区：工業地域（建蔽率 60%・容積率 200%）
事業者：プライム ライフ テクノロジーズ㈱（事業者コンソーシアム代表企業）
協力企業：ミサワホーム㈱、㈱類設計室、㈱松村組、㈱トヨタエンタプライズ、
東急住宅リース㈱
事業手法：定期借地権方式
（一般定期借地権、コミュニティセンター羽田旭は大田区が 50 年賃借）
設計者：㈱類設計室
施工者：㈱松村組

■施設概要

	コミュニティセンター羽田旭	工場アパート	共同住宅兼店舗
階数	2 階建	8 階建	13 階建
面積	約 1,400 ㎡	約 9,700 ㎡	約 5,900 ㎡
戸数／区画	―	54 区画（予定）	126 戸
用途	体育室、集会室 コミュニケーションスペース等	工場アパート、会議室、カフェ等	共同住宅、生活利便施設等
竣工時期	2026 年 7 月	2027 年度秋予定	2027 年度秋予定

※上記施設概要は計画段階のため、今後変更となる場合があります。

【ご参考】
◎東京都「ディープテック・イノベーション拠点推進事業」
https://www.startupandglobalfinancialcity.metro.tokyo.lg.jp/startup/initiatives/deeptechinnovation
https://www.metro.tokyo.lg.jp/information/press/2026/10/2026100205

【関連リリース】
◎「『旧羽田旭小学校敷地活用事業』大田区と事業契約を締結」
https://prime-life-tec.com/news/2023/0331_3/index.html

◎「旧羽田旭小学校敷地活用事業」起工式典を開催
https://prime-life-tec.com/news/2024/0312/index.html

未来をまちづくる PLT
Prime Life Technologies

プライム ライフ テクノロジーズグループは、パナソニック ホームズ、トヨタホーム、ミサワホーム、パナソニック建設エンジニアリング、松村組を事業会社として「未来をまちづくる PLT」をコーポレートメッセージに掲げ、顧客課題と社会課題の解決に取り組んでいます。
※プライム ライフ テクノロジーズ（株）は、2020 年 1月にパナソニック（現パナソニックホールディングス）とトヨタ自動車が設立し、三井物産を加えた 3 社を株主とする会社です。

＊ 本件に関する問い合わせ先 ＊
プライム ライフ テクノロジーズ株式会社 経営企画部 中山肇 井筒克彦 力石菜帆
E-mail：info@prime-life-tec.com